海部郡認定地域クラブ

安全管理マニュアル

美波町・牟岐町・海陽町教育委員会
海部郡部活動地域展開推進協議会

【目 次】

１　安全管理マニュアルについて
(1)目的
(2)適用範囲

２　安全管理体制
(1)安全管理責任者の設置
(2)指導者・スタッフの役割
(3)連絡体制の整備

３　活動前の準備・確認
(1)緊急時の連絡先の把握
(2)生徒の健康状態の把握
(3)個人情報の管理

４　活動場所・用具等の管理・点検

５　活動中の対応
(1) けがや病気になった時の対応
①初期対応
②軽度の場合
③重度の場合
④救急車の必要性
⑤その他

６　災害発生時の対応
(1)火災発生
(2)地震・津波発生

７　落雷事故防止
(1)雷への対応における留意点
(2)落雷が近くで聞こえたら

８　熱中症予防及び対応
(1)熱中症予防運動指数

９　不審者侵入
(1)始めの対応
(2)緊急事態発生時の対応

１０　連絡先等
※ 事故報告書

１　安全管理マニュアルについて

(1)目 的

本マニュアルは、海部郡認定地域クラブ活動における参加者の安全と健康を守ることを目的とし、事故や災害、健康被害等のリスクを最小限に抑えるための基本方針と対応策を定める。

(2)適用範囲

本マニュアルは、海部郡認定地域クラブ活動に参加する生徒及び指導者・スタッフに適用する。

２　安全管理体制

(1)安全管理責任者の設置

各クラブの指導代表者を安全管理責任者として、活動全体の安全確保を統括する。

(2)指導者・スタッフの役割

指導者は、活動前後の安全点検、健康確認、緊急時の初動対応を担う。

(3)連絡体制の整備

緊急時等に保護者・生徒所属学校・教育委員会等と連絡を取れるよう、連絡体制を整備しておく。

３　活動前の準備・確認

(1)緊急時の連絡先の把握

○クラブに参加する生徒の病気やけが等の緊急事態が発生した場合、速やかに保護者や関係諸機関等への連絡・連携が図れるよう、緊急連絡先を把握し、適切に管理をする。

○活動日の生徒の出欠確認を必ず確認・記録し、欠席の場合の連絡方法を保護者等と確認をしておく。

○急な災害や指導者自身等が病気やけがをしたような場合に備え、関係者、関係機関の緊急連絡先との連絡体制を整えておく。

(2)生徒の健康状態の把握

○生徒の健康状況やアレルギー等で、配慮を必要とする生徒の保護者等に情報提供を求め、対応方法等の確認をしておく。

○活動当日の生徒の健康状況の確認。（目視、聞き取り等）

○特別な支援を必要とする生徒には、どのような場面でどのような支援が必要なのか具体的に保護者と検討し、クラブスタッフ間で共通理解をしておく。

(3)個人情報の管理

○緊急連絡先や生徒の健康状態等は個人情報になるので、目的以外に使用することがないよう適切に取り扱う。関係者での共有については、保護者の承諾を取っておく。

○インターネット配信の必要な場合は、写真・動画含め、個人情報保護の観点より使用は十分配慮すること。

４　活動場所・用具等の管理・点検

日頃より、使用施設等の安全管理・安全点検を指導者間で共通認識を持つことが大切。

(1)使用する施設・用具等について定期的な安全点検を行い、事故の未然防止に努める。

(2)使用する学校施設(備品含む)に不備があった場合、速やかに施設管理者に連絡する。

(3)使用する施設の管理者と「鍵」の受け渡し方法や保管場所など確認をし、施設管理等に不備のないよう適切に取り扱うこと。

(4)活動時期、活動時間及び活動場所の気温や湿度など環境条件を把握し、活動時間の短縮や活動の中止などについて適切に判断し、熱中症等事故防止に努める。

(5)活動開始時に参加者の健康状態・疾病・傷病の症状などの健康観察を行い、健康状態を把握して適切に対応するとともに、参加者が主体的に体調管理に努めることができるよう指導する。

(6)使用する用具を適切に保管又は管理するとともに、参加者に用具の正しい利用及び管理について指導する。

(7)使用する施設内でのＡＥＤの設置場所を把握するとともに、定期的に救急救命講習を受講するよう努める。

(8)救急箱等の応急手当用品は各クラブで準備をし、練習や試合の際はすぐに使用できるようにしておく。

(9)地震や火災等の災害が起こったときには、想定される災害に応じた避難経路や対応の仕方について指導者と生徒で共有しておく。

５　活動中の対応

(1)けがや病気になった時の対応

①初期対応

○病気やけがが発生した場合には、指導者や関係者が必要に応じて応急手当を実施すると同時に、他の生徒を落ち着かせ、適切に対応する。応急手当は、安静な状態を保つことや、傷口の消毒、止血、患部の冷却等にとどめ、それ以上の対応が必要な場合は、速やかに保護者に連絡をして受診を勧める。

○首から上及び脊椎負傷の場合は特に注意をする。開眼できない、話すことができない、意識不明等の場合は、安静を第一にし、移動は避ける。

○救急を要すると判断した場合は、直ちに心肺蘇生法等の応急手当てを始めるとともに、躊躇なく「１１９番」に通報し、救急車を要請する。

○発生時刻、発生状況、状況の変化などを記録しておき、医師や救急隊員に説明できるようにする。

②軽度の場合

○軽度のけがにはＲＩＣＥ処置(※1)を行う。

(※1)肉離れや打撲、捻挫など外傷を受けた時の基本的な応急処置方法。

Ｒest(安静)・Ｉcing(冷却)・Ｃompression(圧迫)・Ｅlevation(挙上)

○擦り傷など活動に支障がない場合は経過観察の上、練習終了後、保護者へ説明をする。保護者に家庭での経過観察をお願いするとともに、保護者に経過の確認をする。

○意識はあるが、痛みが続く場合は、練習中でも保護者に連絡をし、医療機関への受診を勧める。受診の結果について確認をする。

③重度の場合

○意識障害が継続する場合や、出血が止まらない等の場合は、直ちに救急車を要請し、保護者連絡をする。救急車に同乗し、別の指導員と他の生徒対応の分担をする。

○救急車が到着するまで、応急手当を行う。意識不明の場合は、気道確保・人工呼吸・心肺蘇生法を必要に応じて行うとともに、ＡＥＤを活用する。

④救急車の必要性

○「意識がもうろうとしている(意識障害)」「けいれんが止まらない、けいれんが止まっても意識が戻らない」「異物を飲み込んで意識がない」「じんましん等、食物や虫刺され等によるアレルギーの可能性」「交通事故にあった」等のときは、躊躇なく救急車を呼ぶ。

※特に、首から上のけがの場合は、救急車を要請するなど、必ず医師の診断を受ける。

⑤その他

○けがや事故が発生した場合、速やかに応急手当や対応を行い、保護者及び運営団体責任者、教育委員会、生徒所属中学校に報告し適切に連携対応を行う。

○救急車を要請した場合や、大きなけが・事故が起きた場合は、教育委員会に直ちに連絡し、その後「事故報告書」で報告する。

○受診をした場合、「スポーツ安全保険」の手続きを行う。

○気象情報によって、当日の天候状況の把握に努め、生徒が安全に活動できるように適切な対策を講じる。

６　災害発生時の対応

(1) 火災発生

○火元場所から遠い方への避難経路に従い、安全な場所へ避難する。

○火災の程度、火元を確認し、直ちに「１１９番」通報する。

○生徒を落ち着かせ、安全確保に努め、避難誘導をする。避難の際は、身を低くし、ハンカチ等を鼻、口に当て、落ち着いて行動をするように促す。

「おはしも」(お)押さない (は)走らない (し)しゃべらない (も)もどらない

○人数確認をするとともに、生徒の状況を把握する(けが人、体調確認等)。

○安全を確認し、保護者に迎えを要請し、保護者に引き渡す。

(2) 地震・津波発生

○発生時における使用会場からの避難経路(複数)、避難所等を確認し、全員に周知しておく。

○身の安全(「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」場所に身を寄せる)を確保し、揺れが治まるのを待つ。

○避難経路(建物内では出口)の確認、火元の確認をし、生徒を落ち着かせる。

○津波を想定し、近くの避難場所(高台)に誘導し、人数確認をするとともに、生徒の状況を把握する(けが人、体調確認等)。

○津波警報等が発表されなくても、強い地震(震度４以上)が発生したときは、津波警報や避難指示等の発表を待たずに、直ちに安全な場所に避難する。

○大津波警報、津波警報が発表された場合は、解除されるまで安全な場所で避難を継続する。(保護者への連絡と引き渡し方法を事前に周知しておく。)

○情報の入手に努め、状況を把握する。地震規模が小さく活動場所周辺の安全が確認されたら、活動を再開する。
○町あるいは教育委員会より帰宅許可があれば、保護者に連絡し迎えを要請する。

7　落雷事故防止

(1)雷への対応における留意点

○雷は積乱雲の位置次第で、海面、平野、山岳などの場所を選ばず落ちる。
また、周囲より高いものに落ちやすいという特徴がある。
○グラウンド、平地、山頂、尾根等の周囲の開けた場所にいると、積乱雲から直接人体に落雷(直撃雷)することがある。また、落雷を受けた樹木等のそばに人がいると、その樹木等から人体へ雷が飛び移ることがある(側撃雷)。
木の下で雨宿りなどをしていて死傷する事故は、ほとんどが側撃雷によるものと言われている。
○遠くで雷の音がしたら既に危険な状況であり、自分のいる場所にいつ落雷してもおかしくはない。
○次のような変化を感じたら、積乱雲が近づいている兆し(サイン)である。
まもなく、激しい雨と雷がやってきて、激しい突風が起きる恐れもある。
・真っ黒い雲が近づいてきた
・雷の音が聞こえてきた
・急に冷たい風が吹いてきた
○たとえ身体に付けた金属を外したり、ゴム長靴やレインコート等の絶縁物を身に着けたりしても、落雷を阻止する効果はあまりない。
○常に気象情報を入手し、絶えず雷鳴や空模様、その他の気象状況の変化に注意ことが必要である。

(2)落雷が近くで聞こえたら

○「雷注意報」発令の有無にかかわらず、雷光や雷鳴があったり、雷雲が近づく様子があったりする場合は、直ちに活動を中断する。
○雷鳴が遠くかすかに聞こえる場合も落雷の危険性があるので、活動を中断し鉄筋コンクリート建築、自動車、バス、列車の内部など、比較的安全な場所へ速やかに避難すること。テントやトタン屋根の仮小屋は危険である。
○木造建築の内部は基本的には安全ですが、全ての電気器具、天井・壁から１ｍ以上離れればさらに安全である。
○近くに避難する場所がない場合は、低い場所を探してしゃがむなど、できるだけ姿勢を低くするとともに、地面との接地面を可能な限り少なくすること。
○自転車に乗っている場合は、すぐに降りて姿勢を低くして、安全な場所に避難する。

（学校危機管理ﾏﾆｭｱﾙ作成の手引き「雷への対応における留意点」より）

８　熱中症予防及び対応

（1）熱中症予防運動指数

熱中症予防のための運動指針を参考に、厚さ指数(ＷＢＧＴ値)、生徒個々の体調等を踏まえ、活動時間帯、活動量等に十分配慮する。熱中症の危険性が高いと判断したときは、活動を中止する。

熱中症予防運動指数

ＷＢＧＴ℃	湿球温度℃	乾球温度℃		
			運動は原則禁止	特別の場合以外は運動を中止する。特に子どもの場合には中止すべき。
３１	２７	３５		
			厳重警戒（激しい運動は中止）	熱中症の危険度が高く、激しい運動や持久走など体温が上昇しやすい運動は避ける。10～20分おきに休憩を取り、水分・塩分を補給する。暑さに弱い人は(※)運動を軽減または中止する。
２８	２４	３１		
			警　戒（積極的に休憩）	熱中症の危険が増すので、積極的に休憩を取り適宜、水分・塩分を補給する。激しい運動は、30分おきくらいに休憩をとる。
２５	２１	２８		
			注　意（積極的に水分補給）	熱中症による死亡事故が発生する可能性がある。熱中症の兆候に注意するとともに、運動の合間に積極的に水分・塩分を補給する。
２１	１８	２４		
			ほぼ安全（適宜水分補給）	通常は熱中症の危険は少ないが、適宜水分・塩分の補給は必要である。（※）環境条件次第では、この条件でも熱中症が発生するので注意する。

(※)暑さに弱い人、体力の低い人、暑さに慣れていない人など。

○ＷＢＧＴ値(暑さ指数)の指針を参考にして、活動の可否も含めて適切に判断する。
○熱中症特別警戒アラート、熱中症警戒アラート発表時等の情報に注意する。
○熱中症発症リスクは個人差が大きく、運動強度も大きく関係する。運動指針は平均的な目安である。スポーツ現場では個人差や競技特性に配慮する。

９　不審者侵入

(1)始めの対応

①不審者かどうか、正当な理由のあるなしの確認。

②正当な理由のない場合、不審者とみなすことを躊躇せず対応、退去を求める。

・複数のスタッフでの対応を基本とする。

・危害を加える恐れはないかを確認する。

・不審者の様子によっては、退去したとしても警察に通報する。

③生徒の安全確保を最優先し、不審者の動向を把握しながら生徒を安全な場所に避難をさせる。

(2)緊急事態発生時の対応

〇退去しない場合は不審者とみなして、警察に通報し、学校施設であれば、学校教職員へ緊急連絡。学校から教育委員会へ緊急連絡をし、支援を要請する。

〇不審者に対応する場合は、自分自身の安全を最優先しながら、可能な限り複数のスタッフで協力をし対応する。

〇スタッフ間で役割分担し、生徒の安全を最優先に確保し、安否を確認しながら、避難の経路とタイミングを判断する。

〇けが人が出たときは、応急処置をし、必要に応じ救急車の要請をする。

〇状況に応じ、活動が困難と判断した場合は、保護者に迎えを要請し、生徒を保護者に引き渡す。

１０　連絡先等

緊急連絡先

けが・病気　　１１９番

不審者・事件　　１１０番

＜次のことを聞かれます＞
１　名前と住所、施設名
２　電話番号
３　何が起きたのか？　誰が、いつ、現状等

美波町教育委員会	☎０８８４－７７－３６２０
牟岐町教育委員会	☎０８８４－７２－０１０７
海陽町教育委員会	☎０８８４－７３－３１００

【関係機関】

【海部郡認定地域クラブ活動　事故報告書】

（　　）クラブ

報告日：令和　　年　　月　　日（　）

１．発生日時	令和　　年　　月　　日（　）　　時　　分頃
２．発生場所	
３．被災者 氏名	男　・　女
４．学校・年齢	＿＿＿＿＿＿＿＿中学校＿＿＿年生　　年齢＿＿＿＿＿歳
５．事故の概要	（例：練習中に転倒し、左足首を捻挫）
６．応急措置内容	（例：ＲＩＣＥ処置を実施、保冷材剤で冷却）
７．救急搬送の有無	□あり（搬送先：　　）　□なし
８．保護者への連絡	□済　□未済（理由：　　）
９．再発防止策	
10．報告者	氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 所属（　　）